

一般演題（ポスター）

2025年11月2日(日) 13:00～13:40 会場A-2

[P] 一般演題（ポスター） 「服薬指導」

[P-052-A] 点眼薬との比較によるエピナスチン眼瞼クリームの使用感および使用上の負担の評価

○中村 紗那¹, 岩水 達矢¹, 佐野 友麻², 高橋 渉³ (1.クオール（株） 田町駅前薬局, 2.ハシモト薬局三笠店, 3.教育研修本部)

【目的】 アレルギー性結膜炎の治療には点眼薬が一般的だが、使用頻度やコンプライアンスに課題がある。2024年に発売されたエピナスチン眼瞼クリームは、1日1回塗布の新しい外用剤であり、使用感や利便性が注目されている。本研究では、従来の点眼薬を使用していた患者を対象に、点眼薬と比較したクリームの負担感、使用感、今後の使用希望等を調査した。

【方法】 協力薬局にてエピナスチン眼瞼クリームが初めて処方された患者に対し、投薬1週間後にSMS経由でWebアンケートを実施した。主要評価項目は、点眼薬と比較した際の負担感に関する自己評価で、符号検定で傾向を分析した。副次的に、使用感、使用タイミング、今後の使用希望等、また自由記述も収集し、記述統計と内容分析を行った。

【結果】 有効回答は35名（年齢中央値36歳（5～68歳））。負担感の比較では、「クリームの方が負担が少ない」「どちらかといえばクリーム」と回答したのは計25名（71.4%）であり、符号検定にて統計的に有意差が認められた（ $p<0.01$ ）。今後の使用希望では、「クリームを使いたい」が20名（57.1%）、「どちらでも構わない」が12名（34.3%）、「点眼薬を使いたい」は3名（8.6%）であった。自由記述では、「1日1回で済む」「点眼を嫌がる子どもに適する」「外出時に便利」との肯定的な回答、一方、「テカリが気になる」「塗布が難しい」との回答があった。

【考察】 エピナスチン眼瞼クリームは、点眼薬と比較して主観的負担感が少ないと評価を得た。自由記述からも、「1日1回で済む」「使いやすい」といった日常使用での利便性が確認された。一方で、「テカリ」や「塗布の難しさ」など使用上の工夫が求められる点も示された。今後は、こうした特性を踏まえた適切な説明や指導が重要と考えられる。